

サッカーワールドカップで盛り上がった アフリカとの国際交流はいかが？

アフリカには53の国がありますが、日本に姉妹都市があるのはカメルーン、チュニジア、エジプトだけです。日本は世界61か国に約1500の姉妹都市があるのに3つだけとは寂しいことです（お隣の中国は日本とほぼ同数の海外姉妹都市のうち1割弱はアフリカ諸国）。日本は北海道滝川市とマラウイの農業協力事業など姉妹都市交流以外の事業を含めてもアフリカとの交流は少ないのが現状です。

国際交流には民際型といわれる「人」と「人」のつながりを重視するものと、戦略型といわれる政策面でのつながりを重視するものがあります。中国は資源の調達や市場の確保といった戦略的な面でもアフリカを含む世界各国との交流を選択していることが多いようです。日本の国際社会における存在感が中国に比べ低くなっていることが感じられます。

さて、そのアフリカから日本との交流を希望する2つの都市を紹介します。

サッカーワールドカップでベスト8に進出したガーナからココフ（人口138,000人）を紹介します。1902年まで約230年間続いたアシャンティ王国の初代王が誕生した土地で、日本と教育、文化、産業の交流を希望しています。

また、人類発祥の地とされるエチオピアからはハラール市を紹介します。歴史的城塞都市として世界文化遺産に登録されており、文化、観光、教育、都市開発などの交流を希望しています。

いずれの国も英語が公用語等になっています。関心をお持ちになりましたらいつでもお問い合わせください。

なお、日本及び中国の自治体外交の考え方については、自治体国際化フォーラム3月号の毛受敏浩氏の特集記事<http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/forum245.html>を、日本との交流を望むアフリカ諸国、カメルーンなど4か国12自治体の詳細情報は当協会HP <http://www.clair.or.jp/j/simai/kibou/africa.html> をご覧ください。

交流支援部交流親善課

E-mail kikaku@clair.or.jp